

くずもめの里だより

第三十五号

早春から晩春へ、花の開花リレー

暦の上では立春（二〇一七年は二月四日）からは春とされています。そうはいつても二月頃は一年で最も寒い時期。春は名のみで、小さな生きものたちは凍てつく水底や落ち葉の下などで、息をひそめて暖かくなるのを待っていることでしょう。風雪をしのぐ家を持つ人間にしても、暖かい衣類や暖房器具がない時代には、冬は脅威であり、無事に春を迎える喜びといったら、現代人には計り知れないほど大きなものだったことでしょう。

暖かい服を持つ現代人だって、やっぱり寒いものは寒いし、春は待ち遠しいものです。少しでも春の気配を感じると、心が軽くなる気がしますよね。それではどんな時に春を感じるでしょうか。風のない穏やかな陽だまり、ひらひらと舞う蝶など人それぞれだと思いますが、やっぱり色々な花が咲き始めた時に、春を感じる人が多いことでしょう。

春の花と言えば真っ先に思い浮かべるのが桜ですが、桜が咲くのはコートも薄地にしようかなと思う、春真っ盛りの頃です。冬のさなかに春の兆しとしてとらえる花と言えば、やっぱり梅の花でしょうか。お正月を過ぎたころから日当たりの良い場所ではチラホラとほころびはじめ、一輪目の開花を見つけた時には、気温が一度上昇するようにも感じます。桜はパッと咲いてパッと散るのが潔いともいますが、梅は比較的長い期間楽しめます。気温が高い時期に咲く花は、成長が早い分花も短命で終わってしまうものが多いですが、寒い時期に咲く花は、開花期間が長いのが長所です。

梅が終わると菜の花、木蓮、桃の花、すみれ、たんぽぽ、チューリップというように、華やかな花の開花リレーが行われることでしょう。そして季節は晩春から初夏へとバトンタッチとなります。早春の頃は数少ない選手が一人ひとり長距離をがんばっているといった感じですが、晩春にもなるとたくさんの選手が加わった、混戦模様のレースとなりそうですよね！

香る花の代表といえば
秋はキンモクセイ
春ならジツショウゲ"ですな



椿

なんとなく冬のイメージもするけれど
ツバキは木々に春と書くと
春の花の代表選手!?



今ではなかなか見られなくなった
田んぼ一面のレンゲの花も
なつかしい春の風景です






サクラ ... スミレ ... モクレン ... ナノハサ ... ウメ

オオイヌノフグリやナズナなど
素朴な野の花も
春を感じる大事なアイテムです







ツツジが咲く頃には
気候も初夏へと
移り変わってくるでしょう

春にまず咲くマンサクや
繊細工のようなロウバイも
早春の花として古くより愛されたいほす

